

WEST

Generate Collection

L6: Entry 19 of 32

File: JPAB

Jun 10, 1986

PUB-NO: JP361122221A
DOCUMENT-IDENTIFIER: JP 61122221 A
TITLE: REMEDY FOR PERIODONTOSIS

PUBN-DATE: June 10, 1986

INVENTOR-INFORMATION:

NAME

YUCHI, SHIGERU

ASSIGNEE-INFORMATION:

NAME

OSAKA CHEM LAB

COUNTRY

N/A

APPL-NO: JP59245400

APPL-DATE: November 19, 1984

INT-CL (IPC): A61K 35/78

ABSTRACT:

PURPOSE: To provide a remedy for periodontosis, containing a component obtained by the dry distillation of a specific herb plant such as ENGOSAKU (rhizome of *Corydalis turtschaninovii*), KIKYO (root of *Platycodon grandiflorum*), SHOMA (rhizome of *Cimicifuga simplex*), etc., as an essential component, and effective to easily and radically curing the toothache and periodontosis by rubbing the tooth and the gum therewith.

CONSTITUTION: The objective remedy for periodontosis contains a component obtained by the dry distillation of ENGOSAKU, KIKYO, SHOMA, TOKI (root of *Angelica acutiloba*), OREN (rhizome of *Coptis japonica*), GAJUTSU (rhizome of *Curcuma Zedoaria*), OUBAKU (bark of *Phellodendron amurense*), BOTANPI (root of *Paeonia moutan*), NASUHETA (calyx of *Solanum melongena*) and/or SERI (whole grass of *Petroselinum crispum*), as an essential component. The polymeric substances such as lignin, etc., liable to cause allergic troubles can be decomposed and dissipated by the dry distillation of the above component. The effective medicinal component such as alkaloid can be produced selectively at a low molecular weight, and metallic atom is separated in elemental form. The medicinal component and the metallic atom, etc., act synergistically for the quick, effective and radical cure of toothache and periodontosis.

COPYRIGHT: (C)1986,JPO&Japio

⑨ 日本国特許庁(JP)

⑩ 特許出願公開

⑫ 公開特許公報(A)

昭61-122221

⑪ Int.Cl.⁴

A 61 K 35/78

識別記号

ACK

庁内整理番号

7138-4C

⑬ 公開 昭和61年(1986)6月10日

審査請求 未請求 発明の数 1 (全4頁)

⑭ 発明の名称 歯周炎治療薬

⑮ 特 願 昭59-245400

⑯ 出 願 昭59(1984)11月19日

⑰ 発 明 者 有 地 滋 豊中市寺内2丁目6番1号1002

⑱ 出 願 人 株式会社 大阪薬品研 豊中市東寺内町173番606号
究所

⑲ 代 理 人 弁理士 清原 義博

明 細 書

1. 発明の名称

歯周炎治療薬

2. 特許請求の範囲

(1) エンゴサク、キキョウ、ショウマ、トーキ、オーレン、ガジュツ、オウバク、ボタンビ、ナスヘタ、セリのうち少なくとも一種の乾溜粉砕物を必須成分として含むことを特徴とする歯周炎治療薬。

3. 発明の詳細な説明

(発明の属する技術分野)

この発明は歯周炎治療薬に係り、その目的はエンゴサク、キキョウ、ショウマ、トーキ、オーレン、ガジュツ、オウバク、ボタンビ、ナスヘタ、セリのうち少なくとも一種の乾溜粉砕物を必須成分として含むことを特徴とする歯周炎治療薬の提供に在る。

(従来技術及びその欠点)

近年の食生活の変化や甘味間食の過食に基づき、歯痛、歯槽膿漏等が年齢を問わず即ち幼児から

老人まで多い。

勿論、これらの原因は単に食生活のみに基づくものではなく、その原因はそれぞれ種々多様であり確定的に断定することできないが、唯現象的には高炭水化物食が始源的な原因であることが多いといえる。

一般的には、例えば歯周炎である歯槽膿漏の原因は、(1) 歯周組織自体の性質でかかりやすい性質を持つ人 (2) 歯周組織にたいし歯石、不良充填物、補綴物の機械的刺激、歯を介しての負担過剰、食物の残りカスや歯ぐきその腐敗、温度的刺激、(3) 糖尿病等の新陳代謝異常、ビタミンA, C, D, B, K の欠乏 (4) 自律神経障害 (5) アレルギー等、

の種々の原因が存在するといわれている。

従って、本質的にはその根源たる原因を解明しその原因に対する根本的治療が必要であることはいうまでもないが、通常は大多数の人は歯科治療の煩雑性を嫌いその症状が相当重症になるまで放置している。

一時的には、鎮痛薬を服用して歯痛を解消することは知られているが、これら従来の鎮痛薬は中枢神経に作用して、意識の消失をきたすこと無く消炎作用を同時に行うものであるが一時的処方に過ぎないことも事実である。

しかしながら、簡易な方法で且つ抜本的にこれらの苦痛（特に歯痛は我慢しがたいから）を解消できる治療薬が要望されている。

この発明者は長年に亘り薬用植物に関し研究を続けてきたが、その過程で特定薬用植物の乾燥後の粉砕物を必須成分として含む治療薬がこの様な歯痛、歯周炎の簡易且つ抜本的な治療薬としての効果をもつことを見だしこの発明に到達した。

(解決手段)

即ち、この発明はエンゴサク、キキョウ、ショウマ、トーキ、オーレン、ガジュツ、オウバク、ボタンビ、ナスヘタ、セリのうち少なくとも一種の乾燥粉砕物を必須成分として含むことを特徴とする歯周炎治療薬に係るもので、この様な治療薬を指に載せて或いは柔らかいブラシに載せて、歯

又は歯茎にこすりつけて磨けば簡単に且つ抜本的に歯痛及び歯周炎を治療することができる効果を持つ。

(発明の構成)

この発明で使用するエンゴサクとはケシ科 (*Papaveraceae*) の多年草であるエゾエンゴサク (*Corydalis ambigua* Chem. et Schlecht) 及びこのエゾエンゴサク (*Corydalis ambigua* Chem. et Schlecht) の近縁種のヤマエンゴサク (*Corydalis lineariloba* Sieb. et Zucc.)、ヒメエンゴサク (*Corydalis lineariloba* Sieb. et Zucc. *capillaris* Ohwi)、ジロボウエンゴサク (*Corydalis decumbens* pers) 等の塊茎の乾燥物をいい、従来から鎮痛、浄血剤として使用されていた。

この発明で使用するキキョウとはキキョウ科 (*Platycodon*) の多年草であるキキョウ (*Platycodon grandiflorum* A.D.C.) 及びこのキキョウ (*Platycodon grandiflorum* A.D.C.) の近縁種の根の乾燥物をいい、従来から痰や腫の除去剤として使用されていた。

いた。

この発明で使用するボタンビとはボタン科 (*Paeonia*) の植物であるボタン (*Paeonia moutan* Sims) 及び近縁同属種の根皮の乾燥物をいい、従来から鎮静、鎮静剤として使用されていた。

この発明で使用するナスヘタとはナス科 (*Solanum*) の植物であるナス (*Solanum melongena* L.) 及び近縁種の果実の萼の乾燥物をいう。

この発明で使用するセリとはセリ科 (*Oenanthe*) の植物であるセリ (*Oenanthe javanica* DC) 及び近縁種の根の乾燥物をいい、従来は消炎剤として使用されていた。

この発明においてはこのようなエンゴサク、キキョウ、ショウマ、トーキ、オーレン、ガジュツ、オウバク、ボタンビ、ナスヘタ、セリのうち少なくとも一種の乾燥粉砕物を必須成分とする。

この発明において、これら成分を乾燥粉砕物とするには常法に準じて行えばよく、還元性雰囲気中で250℃以下の温度を加え、1～3時間程度乾燥した後、炭化物を粉砕すれば良い。

この発明で使用するショウマとはキンボウゲ科 (*Cimicifuga*) の多年草であるサラシナショウマ (*Cimicifuga simplex* Wornskjard) 及びこのサラシナショウマ (*Cimicifuga simplex* Wornskjard) の近縁種の根茎の乾燥物をいい、従来から解熱、消炎剤として使用されていた。

この発明で使用するオーレンとはキンボウゲ科 (*Cimicifuga*) の植物であるオーレン (*Captis japonica* Makino) 及びこのオーレン (*Captis japonica* Makino) の近縁種の根茎の乾燥物をいい、従来から鎮静、消炎剤として使用されていた。

この発明で使用するガジュツとはショウガ科 (*Zingiberaceae*) の植物であるガジュツ (*Zingiber officinale* Roscoe) 及びこのガジュツ (*Zingiber officinale* Roscoe) の近縁種の根茎の乾燥物をいい、従来は健胃剤として使用されていた。

この発明で使用するオウバクとはミカン科 (*Rutaceae*) の植物であるキハダ (*Phellodendron amurense* Ruprecht) 及び近縁同属種の樹皮の乾燥物をいい、従来から健胃剤として使用されて

この発明においては、この乾溜粉砕物を使用することが最大の特徴であって、実際薬効成分を乾溜後用いるという方法は、民間の極一部にイモリ、マムシの黒焼きとして伝承されているに過ぎずその薬効性に付いては疑問視されている。

しかしながら、この発明者の実験的知得によれば、前記必須成分を乾溜することにより、アレルギー障害を起こし易いリグニン等の高分子物質が熱分解して揮散し且つアルカロイド等の薬効成分が低分子化して選択的に得られるとともに金属原子が化合物中から単体状で得られ、この薬効成分及び金属原子らが相乗的且つ迅速、有効に歯痛、歯周炎に対し抜本的に作用するものと考えられている。

この様な成分をもちいてこの発明に係る歯周炎治療薬とするには、少なくとも全体の40重量%以上これら成分が含まれるように調製するば良い。

勿論、他の増粘剤、潤滑剤、香料、賦形剤の添加をするのが望ましい。

尚、使用量は特に問われ無いが炎症の程度に応

じて、適宜増減すればよいが、目安として一回の使用量が成人で500mg ~ 1000mg (乾溜粉砕物) 程度なるようにすれば良い。

(効果)

以上詳述した如く、この発明に係る歯周炎治療薬はエンゴサク、キキョウ、ショウマ、トーキ、オーレン、ガジュツ、オウバク、ボタンビ、ナスヘタ、セリのうち少なくとも一種の乾溜粉砕物を必須成分として含むことを特徴とする歯周炎治療薬であるから、鎮痛、消炎効果をもつ薬用植物の乾溜粉砕物を使用することによってアレルギー障害を起こし易いリグニン等の高分子物質が熱分解して揮散し且つアルカロイド等の薬効成分が低分子化して選択的に得られるとともに金属原子が化合物中から単体状で得られ、この薬効成分及び金属原子らが相乗的且つ迅速、有効に歯痛、歯周炎に対し抜本的に治療する効果を奏する。

次にこの発明の実施例及び試験例を示すことにより一層この発明の効果を明確にする。

実施例1~2

(1)

エンゴサク乾溜粉砕物	0.3g
キキョウ 乾溜粉砕物	0.2g
ショウマ 乾溜粉砕物	0.3g
トーキ 乾溜粉砕物	0.2g
オーレン 乾溜粉砕物	0.1g
グリセリン	0.5g
メントール	0.2g
レモン油	0.01g
チモール	0.0001g
ソディウム	
カルボキシメチルセルロース	適量

(2)

ガジュツ 乾溜粉砕物	1.0g
ナスヘタ 乾溜粉砕物	1.0g
ベニバナ末	0.1g
ヨモギ 末	1.0g
グリセリン	0.5g
メントール	0.2g

レモン油	0.01g
チモール	0.0001g

ソディウム

カルボキシメチルセルロース 適量

上記組成のこの発明に係る歯周炎治療薬を調製した。

試験例1

25才女性。歯槽膿漏。歯茎がはれ出血がある。

実施例1の歯周炎治療薬を一日3回、指につけて患部に良く擦り込ませた。

2日経過後歯肉からの出血が停止した。

3ヶ月間継続したところ、歯肉の色が暗褐色から鮮やかな赤色となった。

又、口臭がなくなった。

試験例2

32才男性。歯痛がひどい。実施例2の歯周炎治療薬を1時間置きに患部に擦り込ませた。

5時間で痛みが解消した。

2週間(1日2回)継続させたところ歯痛が無くなった。

試験例3

24才男性。虫歯に基づく歯痛がひどく、歯周炎を起している。

実施例1の歯周炎治療薬を1時間置きに患部に擦り込ませた。

10時間で取敢えず痛みは解消した。

3ヶ月(1日2回)継続させたところ歯痛は全く無くなった。

歯肉の色が暗褐色から鮮やかな赤色となり、口臭もなくなった。

以上の結果から明らかな如く、この発明に係る歯周炎治療薬は迅速且つ抜本的に歯周炎の治療効果があることが判る。

代理人 弁理士 清 原 義 博

